名大災害対策室などのグループが絵画による被害や復興の様子の再現を行っています。この絵は、富田さんの証言に基づき描かれました。

地震直後の富田さんの家の様子。戦時下で極端に資料が少なかったため、地震を伝える貴重な写真となりました。

その9

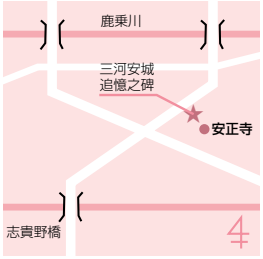
三河地震追憶之碑

西尾市から安城市へ向かうため赤い志貴野橋を渡って数百メートル行くと、右手に「三河地震追憶之碑」が見えてきます。第2次世界大戦まっただ中の昭和20年1月13日未明に起こった三河地震で、家屋のほとんどが全半壊となり多数の死者が出たこの藤井地区で、この災害の事実を後世に遺(のこ)そうと、昭和52年に建立されたものです。

地震当時、わたしは自宅の勉強部屋として使っていた茶室に一人で寝ていました。そして、深夜3時半過ぎに突然上下動の激しい揺れに襲われます。揺れが収まり、寝たまま電気をつけようと手を伸ばしたとき触れたものは、崩落した天井でした。その瞬間、真っ暗闇の中で、この地震がいかに激しかったかを実感しました。

この地震で、藤井では77人の尊い命が奪われました。そして、わたしのおばあさんと妹も犠牲になりました。

大変な被害だったにもかかわらず、戦時下の情報統制によりほとんど記録や資料が残っていない三河地震。しかし、当時の悲惨な様子とともに、その後にたくましく復興をとげていく姿もまた、わたしの頭の中で鮮明に残っています。運良く生き残ったわけですから、ぜひ、この記憶を後世に伝えたいと思います。



★三河地震追憶之碑
（藤井町）

今月の案内人
藤井町　富田達躬(たつみ)さん